めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより　令和４年１月発行

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、コロナ禍によりじくじたる思いをしつつ、やっと平常を取り戻したかと思うや、再びの災いで先が見通せず心苦しいばかりです・・・。が、スタッフ一同皆様のご利用をお待ちしております。

さて、そのような中リスクの少ないキャンプが見直されていますが、かつて、北九州市においても 10 泊 11 日の長期キャンプが行われていました。このモデルとなったのが、現在も継続されている愛媛県宇和島市御五神島（おいつかみじま）での長期キャンプです。

このキャンプから導き出されたのが、電気もガスも、水道も無い無人島で仲間とともに 10 泊も過ごすと、確かに体力は日にひに落ち、気力も落ちていく、しかし後半を過ぎると、（もうすぐ帰れるとの思いもあったのか？）環境への順応もあったのか、落ちた体力をもカバーするほど気力が増し、結論として『頑張れる＝自己肯定感・やり遂げる＝達成感』、そして『仲間意識の醸成』等々ではなかったかと思います。

また、昭和 59 年から 3 か年にわたり、（当時）福岡教育大学教授三浦清一郎氏らにより筑前大島で長期キャンプが実施され、このキャンプを考察・研究、発刊された、「現代教育の忘れもの」(学分社)も参考として、北九州市でも昭和 63 年から数カ年小倉北区の藍島を舞台に 10 泊のキャンプを実施しました。三浦氏は、この著書の中で「四つの過剰」を言われています。

① 世話の過剰　②授与の過剰　③指示の過剰　④受容の過剰　（詳細は著書参照）

少年自然の家は、集団宿泊生活を通じて「四つの目的の涵養」

① 規律　②協働　③友愛　奉仕

を掲げ、野外での自然体験活動を糧にこれら目的への前進を図っていますが、その大前提となる『安全』には十二分な対応が不可欠です。4 月には、子どもたちを対象として『観天望気学習キャンプ』を実施します。日の出、日の入り、風向、風力・・・、自然の摂理に終点はありませんが、どちらの四つの意味も大切にしつつ子どもたちが本来持っている、『野生の勘』を少しづつ磨きたいと思います。

主催事業報告

第２回かぐめよし自然少年団

今回は、もじ少年自然の家でMAC（もじアドベンチャークラブ）と一緒に活動をしました。普段、海での活動はしないので、磯遊び、拾った貝殻ペイント、塩作りなど時間が経つのも忘れて団員たちは楽しんでいました。夜は、キャンドルのつどいをして、友情を深め合いました。来年度は、かぐめよしであります。みんなでかぐめよしの夏を楽しもう！

水辺の生き物調査

水環境館との合同開催で行われた水辺の生き物調査には７家族２０名が参加。雨で、参加者は川に出られるか心配していましたが、雨も上がり、みんなで捕まえた紫川最上流部に住む生き物を観察したり、熱心に説明を聞いたりしていました。

たくさんの生き物に出会えてよかったね！

親子でかぐめよしダムカヌー

夏の心地よい風が吹く中、親子でかぐめよしダムカヌーを行いました。少し緊張していた顔も湖面に出ればたくさんの笑顔に変わっていました。やっぱりカヌーは楽しいですね！

来年もみなさまのご参加お待ちしております♪

水環境体感キャンプ

夏の大冒険が２年ぶりに復活！小学校４年生から中学３年生までの男女18名が３泊４日の大冒険に挑戦しました。新しい友だちとの出会い、普段とは違った視点で見る川の魚たちや植物、初めてのソロテントでのキャンプに大興奮！

一生忘れられない夏の思い出ができましたね。

初めての陶芸教室

干支の虎の土鈴とにコーヒーカップやマグカップ、各家族ごと大皿を作りました。

参加者は、粘土を扱うのに苦戦していましたが、作品が出来上がっていくにつれて、「大皿に何を盛り付けようか」など思いが膨らんでました。焼きあがったものは、どれも素敵な作品ばかりだったので、家族で楽しく食卓を囲んでほしいなぁと思います。

家族でキャンピング＆アウトドアご飯

初日は生憎の雨でしたが、家族ごとに飯盒炊爨とカレー作りに挑戦。美味しくいただいた後はレクリエーションを楽しみ、待ちに待ったテント泊！悪天候の為、体育館でのテント泊でしたが、テントの中で家族の時間を楽しんでいた様です。２日目は雨も止み、野外調理や屋外活動を楽しみました。頑張って作ったご飯、美味しかったですね！！

秋の福智山登山

爽やかな秋晴れの下、５家族１９名が北九州市最高峰を目指しました。元気いっぱいに登った山頂からは、遠くに九重連山や由布岳、雲仙普賢岳までも見る事が出来、みんな感激していました。帰りの道中も行きと同様、隊長から色々な植物の説明を聞きながら全員無事下山！きれいな景色を見ながらのお弁当、美味しかったですね！！

第4回かぐめよし自然少年団

冬の訪れを感じる 11 月のかぐめよしでカヌーやハイキングを行いました。活動に慣れてきたのか、団員同士の交流がこれまで以上に活発で、笑顔が絶えない２日間になりました。

2021 年の活動はどうだったかな？少年団のテーマである「新しい発見」を 2022 年もたくさんしてほしいと思います。団員のみんな、頑張ろうね！！

親子でワクワク！工作教室①

今年度１回目の工作教室は天然木を活かした「マガジンラック」作り。初めて使うノコギリや電動工具にちょっぴりドキドキ。色々な工具の使い方を習いながら、親子で協力して１つの「作品」を作り上げていきました。

今頃、お家でどんな本が並べられているのかな？

クリスマスリース作り

親子でリース作りにチャレンジしました。まずは所内を散策し素材集め！ドイツトウヒ、ヒイラギ、メタセコイアの実などを拾い、リース作り開始！親子で黙々と作業されていました。

飾りも葛もほとんど自然の素材だけで素敵なリースが出来ましたね！

※5 月 22（土）～23 日（日）の「かぐめふるさと交流」、9 月 4（土）～5 日（日）の「第 3 回かぐめよし自然少年団」、9 月 25（土）～26 日（日）の「家族でキャンプだホイ！」は、新型コロナウィルス感染拡大の為、中止となりました。

頂吉図鑑

柞の木（イスノキ）

～第26回～

今回紹介するのは、柞の木（イスノキ）です。恥ずかしながら頂吉にあるのをずっと気付かずにいました。それも毎日のように歩いているサイクリングロード脇にありました。私には馴染みの深い木なのですが、この辺りではあまり見かけない木です。（もしかしたら私が気づいていないだけかもしれません）この木は葉や枝に虫こぶが出来ます。葉には全部ではないかというほど虫こぶが出来ています。枝に出来る虫こぶはピンポン玉より大きくなります。秋が深まるころ穴があいて虫が出ていきます。この穴のあいた虫こぶが子どもの格好の遊び道具になりました。穴に息を吹き込むと笛になるのです。穴の大きさで音色が変わるので、いい音のなる虫こぶを見つけると嬉しかったのを覚えています。吹くとヒョウヒョウ鳴ることからヒョンの木と呼ぶ地方もあるそうです。虫こぶはアブラムシによるもので、種類により虫こぶの形状が違うということが、調べて判りました。笛として使っていた虫こぶも２種類の形があることに気が付きました。その気になって観察しないとわからないことが沢山あるんだと改めて思いました。

柞の木の名の由来は、櫛（クシ）の木から転訛したのではないかなどの説があります。この木は日本で一二を争うほど比重が重く、硬く丈夫であることから櫛や床柱、家具、木刀などに利用されてきたそうです。所のすぐ近くありますのでご覧になりたい方は声をかけて下さい。

主催事業のお知らせ 2～3月

	事業名	時期	対象者・人数
３月	第６回かぐめよし自然少年団	３月12日（土）～13日（日）	かぐめよし自然少年団に所属する団員

※今後の新型コロナウィルス感染状況によっては、事業を縮小・中止することがございます。

主催事業の募集は全て市政だよりに掲載します。
応募は市政だよりをご覧になり、お申込み下さい。

北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒８０３-０２６７
北九州市小倉南区大字頂吉４５１-１
電話：(093)４５１-３１１１　FAX：(093)４５１-３１３３

instagram　facebook